



広い校庭に歓声が広がる



モスクワ日本人学校

しらかば

第11号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 91名

(E-mail)

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

あいさつの作法

校長 石川 賢

子どもたちを迎えることを朝の日課にしています。挨拶を交わすことで一日の始まりを後押ししたい。そんな思いで続けています。バスや自主登校の様子をチェックすることもありますが、日本語、ロシア語、英語、イタリヤ語の挨拶が行き交う朝の風景を眺めながら子どもたちの成長に思いを巡らせるのは楽しい一時です。

先日、保護者アンケートの集計を基に、子どもたちの実態について職員で話し合いました。「元気のよいあいさつができています」ことも話題になりました。「できていないと思う」人の割合が少しずつ増えているものの、「あまり思わない、思わない」の人の割合は変わらず一割程度입니다。早速、全校で取り組もうということになり、翌朝全学級で子どもたちと「あいさつ」について考える場を設けました。振り返りを大切にし、

内面を育みたいと考えたからです。その日の下校時、様子は一変しました。私の前にきちんと立ち、「礼」をしながら頭を下げ、「校長先生さようなら」ととても丁寧にあいさつをする子がぐんと増えたのです。

「立ち止まり、相手の目を見てあいさつしよう」という話になったかどうかは分かりませんが、挨拶を見える形にした点は素晴らしいです。また、自分を振り返り、良いと思ったことを直ぐに実行に移そうとするモス日っ子の素直な心の有り様を嬉しく思いました。「あいさつの作法」が挨拶の輪を確実に広げています。

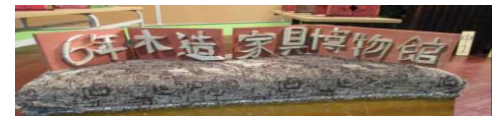
コロナ禍の中で年の瀬を迎えます。春以来、皆様には学校を力強く支えていただきました。感謝の一言です。きちんと挨拶せずに二学期を終えることはとても残念ですが、令和三年が佳き年でありますよう祈ります。

個性あふれる作品が出来上がりました。



◆個人懇談に合わせて作品展を計画し、会場の4階ホールには個性あふれる作品が並んでいます。

◆残念なことに観賞していただくことは叶いませんでしたが、是非作品を通じてお子様と対話していただきたいと思ひます。



一日のリズムをつくる (モスエクタイム)



校舎の消毒。学校再開に備え、全教室の消毒をしてもらいました。

コロナ禍の中で

◆二学期末を最高の形で締めくくろう。そんな思いで迎えたラストの二週でしたが、実際には臨時休業の中で終業することになりました。これまで保護者の皆様のご協力をいただきながら感染防止に努めてきただけに残念でなりません。

◆学校では、危機感をもって基本的な感染対策に努めてまいります。また、コロナ禍には、これまで以上に保護者との連携を強化して対応していく必要があります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

◆子どもたちも、最後の週には、特別の思いをもっていただけはずです。その思いを形にすることができず、不完全燃焼状態にあるのではないのでしょうか。明後日からの冬季休業期間を、思いを新たにす時間に充ててほしいと願っています。